



はなしのたね

hanashi no tane

vol.13

「仲良きことは…」のはなし。



現代にも受け継がれているということはそれだけ感銘を受けた人が多かったということです。近年、やたらとこの「仲の良さ」をウリにする芸能人が多く、もはやそれは素晴らしいどころか「目に余る」レベルではないかと思えます。いや、別に夫婦とか、友人同士が関係の良さをアピールするのはいいんです。ただコンビ間とかグループ内の仲良しアピールは、ハッキリ言って不要ではないでしょうか？仲がいいに越したことはないです。ただそれをウリにするのは違います。芸能人である以上、世間に認めさせるのはあくまで「芸能」であるべきだと思うからです。仲がめっちゃくちゃ悪くたって、私たち視聴者を思いっきり楽しませてくれれば別にそれでいいんです。

人間が成長するためには2つの要素が必要です。それが「努力」と「競争」。これはもう大前提とっていいでしょう。「努力」は一人でもできるからいいとして、「競争」は相手がいないとできません。でもその相手が仲のいい人だったら、そこに純然たる競争意識が生まれにくいのではないのでしょうか。百歩譲って、アイドルグループならそうした意識がなくてもまあ許しましょう。極限レベルの技術を求められることはほぼないからです。男性アイドル、女性アイドル問わず、彼らは自分達が持つ「キラキラ感」を最大のウリにできる存在です。逆にそれさえあれば歌やダンスが素人レベルでも構わない。素人レベルでは絶対に許されないのはやはり「お笑い芸人」です。漫才は下手クソで面白くもなんともないけど、僕たち仲がいいから素敵でしょ？は絶対に許されません。

ただ、一部にこうしたお笑いコンビ同士の仲の良さをありがたがる風潮があるのが非常に残念です。そういう要素を芸人に求める人たちは、何を目的に漫才やバラエティ番組を見ているのでしょうか？そういう人たちはYouTubeで是非やすきよの漫才を一度見てみるといいでしょう。舞台の上をとこ狭しと動き回ってこれでもか！とお互いがボケ倒す。勝手に横山やすしをボケ、西川きよしをツッコミ、と思っている方が多いかもしれませんが、実はあんまり関係ない。きよし師匠もバンバンボケます。それを上回るボケをまたやっさんが繰り出して会場をうねらせる。「お前より俺のほうがオモロイじゃ！」というギラギラ感がまあ～すごい。面白いのに殺伐としている。この人たちを見て「2人は仲がいい」とは絶対思わないでしょう。でも、だからこそ天下を取ったのだと思います。舞台の上という極限の場所でも相手を「笑い殺したる」ぐらいの気合いで挑んでいたからこそ伝説の漫才が生まれたのです。だから「仲良しアピール」をやたらしている芸能人のパフォーマンスは総じて本物ではありません。でもスポンサー様のご意向で、そうしたクリーンなイメージのタレントが重宝されてしまうのは致し方ないところでもあります。ただ、冷静に考えてみてください。本当に仲のいい友達を誰かに紹介するとき「私、この人と仲がいいんです」と言いますか？仲がいいことをアピールしなければいけない時点で、それは本物の仲の良さではないのです。

Special thanks to (N)

アタマの体操「脳トレ編」

脳を活性化しアンチエイジングに最適です。お役立て下さい。

問題1 「？」に入る言葉は何？

- ①く ③ … 戦い
- ⑧た ① … 20才
- ⑥ま ③ … ？
- ⑧一 ⑥ … 頬



問題2 漢字の部首だけで元の四字熟語を当ててください

巳 木 一 彡



はなしのたね
vol.12の
答え

問題1
陣内孝則
上白石萌音
近藤春菜

問題2 疑心暗鬼